

(33) みょうが(花穂)

病害虫	防除法	参考事項
根茎腐敗病	(耕種的・物理的防除) 1 排水を良くする。 2 発病を認めたほ場では、3～5年間は作付けを控える。 3 病害虫に侵されていない健全な根株を使用する。 4 発病ごく初期に病株を抜き取り処分する。 (薬剤防除) 農薬登録情報 1 土壌消毒を行う(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項 を参照)。 2 ユニフォーム粒剤を土壌表面に散布する。 3 オラクル顆粒水和剤又はランマンフロアブルを土壌かん注する。	
葉枯病	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 発病初期にダコニール1000を10日間隔で2～3回散布する。	
立枯症	(薬剤防除) 1 土壌消毒を行う(共通防除の章の資材・苗床・本畑の消毒の項 を参照)。	
アザミウマ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 アグロスリン水和剤、ファインセーブフロアブル又はスピノエース顆粒水和剤を散布する。	○ 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。
コナカイガラムシ類	(薬剤防除) 農薬登録情報 1 アドマイヤー顆粒水和剤を散布又はアクタラ顆粒水溶剤を散布する。	○ 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。 ○ アドマイヤー顆粒水和剤はカイガラムシ類での登録。

病害虫	防除法	参考事項																	
<p>ハスモンヨトウ</p>	<p>(予防に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 防虫ネット等の使用により、成虫の飛来及び産卵を防ぐ。 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。 3 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。 4 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。 <p>(判断、防除に関する措置)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。 4 作物残さを適切に処分する。 <p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 交信かく乱剤 <table border="1" data-bbox="359 817 1121 936"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ヨトウコンーH</td> <td>ハスモンヨトウ</td> </tr> <tr> <td>コンフェューザーV</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 2 BT剤 <table border="1" data-bbox="359 996 742 1236"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エコマスターBT</td> </tr> <tr> <td>クオークフロアブル</td> </tr> <tr> <td>サブリーナフロアブル</td> </tr> <tr> <td>デルフィン顆粒水和剤</td> </tr> <tr> <td>フローバックDF</td> </tr> </tbody> </table> 3 下記薬剤のいずれかを散布する。 <table border="1" data-bbox="359 1299 742 1489"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アグロスリン水和剤</td> </tr> <tr> <td>アタブロン乳剤</td> </tr> <tr> <td>カスケード乳剤</td> </tr> <tr> <td>フェニックス顆粒水和剤</td> </tr> </tbody> </table> 	薬剤名	備考	ヨトウコンーH	ハスモンヨトウ	コンフェューザーV		薬剤名	エコマスターBT	クオークフロアブル	サブリーナフロアブル	デルフィン顆粒水和剤	フローバックDF	薬剤名	アグロスリン水和剤	アタブロン乳剤	カスケード乳剤	フェニックス顆粒水和剤	<p>○ 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。</p>
薬剤名	備考																		
ヨトウコンーH	ハスモンヨトウ																		
コンフェューザーV																			
薬剤名																			
エコマスターBT																			
クオークフロアブル																			
サブリーナフロアブル																			
デルフィン顆粒水和剤																			
フローバックDF																			
薬剤名																			
アグロスリン水和剤																			
アタブロン乳剤																			
カスケード乳剤																			
フェニックス顆粒水和剤																			
<p>ハダニ類</p>	<p>(薬剤防除) 農薬登録情報</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 発生初期に下記薬剤のいずれかを散布する。 <table border="1" data-bbox="359 1590 742 1892"> <thead> <tr> <th>薬剤名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アフーム乳剤</td> </tr> <tr> <td>コテツフロアブル</td> </tr> <tr> <td>コロマイト乳剤</td> </tr> <tr> <td>サンマイトフロアブル</td> </tr> <tr> <td>スターマイトフロアブル</td> </tr> <tr> <td>ダニサラバフロアブル</td> </tr> <tr> <td>ダニトロンフロアブル</td> </tr> </tbody> </table> 	薬剤名	アフーム乳剤	コテツフロアブル	コロマイト乳剤	サンマイトフロアブル	スターマイトフロアブル	ダニサラバフロアブル	ダニトロンフロアブル	<p>○ 花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。</p>									
薬剤名																			
アフーム乳剤																			
コテツフロアブル																			
コロマイト乳剤																			
サンマイトフロアブル																			
スターマイトフロアブル																			
ダニサラバフロアブル																			
ダニトロンフロアブル																			